

インディアナ日本語学校便り

だいごう
第2号

令和7年4月26日事務所 317-255-1631 メール ijls@indiana-j-school.net

(HP) <http://www.indiana-j-school.net>

校長 森 勝義

「2025 年度中学校教科書改訂」

～2026 年度高等学校改訂～

(保護者の方々は第二の教師)

校長 森 勝義

先週、悪天候にもかかわらず、保護者の方々の参列をいただき、無事に入園・入学式、始業式を開催することができました。ここインディアナ日本語学校も順調なスタートを切りました。

小学部・中学部においては、新しい教科書を配布しました。特に中学部は 10 年ぶりの改訂版教科書になります。(新学習指導要領の改訂に伴って)

保護者の皆様も、ご家庭で教師となり、お子様と一緒にすべての教科書を手に取っていただき、学習支援をお願いしたいです。

また、2026 年は高等学校の教科書が全面改定となります。

日本語学校は【国語】【算数】【社会】の 3 教科を学習しています。この 3 教科は確実に実践していただきたいです。

日本の学校授業日数は、年間約 200 日。日本語学校の授業日数は年間 42 日、そのうち 2 回は(運動会・卒業卒園式)に費やされ、40 日となります。40 回の授業で 1 年分のカリキュラムを教えることとなります。必然的に宿題や課題が増え、進度が速くなる単元もあります。

日本語学校小学部の先生方は、昨年、新しい教科書を手にして、旧教科書と新教科書を対比しながら、授業カリキュラムを組まれています。しっかりと教材研究をされ、子どもたちに、いかに分りやすい授業をしていくか、日々研鑽、研修を重ねています。もちろん同学年担任間や他学年との情報共有も大切なツールとなっています。同様に今年度は、中学部の先生方が今年度、新しいカリキュラムを編成していくこととなります。

子どもたちは、現地校と日本語学校の両立、日本文化とアメリカ文化の間で苦労しながらも、健気に頑張っています。保護者の方々に心配かけないように、自分自身、心が折れそうなことがあっても乗り切ってきて、今に至っています。土曜日の朝、笑顔で登校してくる園児児童・生徒を見ると、胸にこみ上げてくるものがあります。「ああ、家庭学習では、まず現地校の宿題、そして日本語学校の宿題に取り組んでいるんだろうな」と感心します。

ご家庭の深いご理解と、多大なご協力をこれからもお願いいたします。

3月15日作品 土曜パラダイスで紹介 前年度学年より

小学4年2組	後藤 茜	「1年間 ここで過ごしたこの時間 ぜったい忘れん みんなとクラス」
小学2年1組	いたがきえま	「うちのおかあさん ボランティア」
小学3年2組	飯田 靖士	「春休み みんなどこ行く? おしえてよ」
小学2年2組	後藤 楓	「もうちょっと やりたかったな 二年生」
小学5年2組	入江 友	「運動会 来年もいてくれ モリエモン」
小学5年2組	石井 碧芭	「クラス替え また来年も 5の2がいい」

ダジャレコーナー

小学4年2組	水野谷 燈	「バナナがしゃべった そんなバナナ」
小学1年2組	深川いつき	「ブタガブー」

2025年度 4月19日 作品

中学3年1組	元中2ガール	「新学期 今年も頑張る 去年以上」
小学4年1組	松田 こうた	「じこしょうかい きんちょういっぱいドクンドクン」
小学4年2組	北川 ゆま	「ひさしぶり 日本語 うれしいな」
小学3年2組	青砥 せな	「さくらの木 とてもピンクで かわいいな」
小学6年2組	石井 碧芭	「春なのに 桜がないの さみしいな」
小学4年2組	油家 心海	「かせがふき あたたかくなり きもちいい」
小学6年1組	小澤 玲奈	「よろしくね 6年1組 たのしみだ」
	井田 大葵	「ひつじ雲 ひつじじゃなくて ウロコみたい」
	阿部 陽色	「あおいそら ひつじがいっぱい はしっている」
	読み人知らず	「このクラス とてもたのしい いいクラス」
	福原 みう	「進級 楽しみすぎて とびはねる」
	町田ひなみ	「ひつじぐも たくさんいるよ かわいいな」
	野中 準矢	「雲の空 じゆうに動く 青と白」
	濱石 明佳	「青空に ふわふわうかぶ わたあめが」
	清水 彩加	「よじかんめ おなかになって はずかしい」
	入江 友	「青い空 ここに何を うかべよう」
	西川 翔真	「ひつじ雲 ベットみたいで フカフカだ」
	慶野 璃音	「あおぞらに 白いわたあめ おいしそう」

ダジャレコーナー

小学4年1組	西脇	「くもん 行くもん」
小学4年1組	北川 ゆま	「リコーダーは おりコーダー」

中学 2 年国語教科書より

見えないだけ 年若い友へ

牟礼 慶子

空の上には

もっと青い空が浮かんでいる

波の底には

もっと大きな海が眠っている

胸の奥で

言葉がはぐくんでいる優しい世界

次の垣根で

蕾をさし出している美しい季節

少し遠くで

待ちかねている新しい友だち

あんなに確かに在るものが

まだここからは見えないだけ

小学 6 年国語教科書より

「準備」 高階 紀一

待っているのではない

準備をしているのだ 飛び立っていくための

見ているのではない

測ろうとしているのだ

風の向きや速さを

初めての位置 初めての高さを

こどもたちよおそれはいけない

この世のどんなものもみな

「初めて」から出発するのだから

落ちることにより

初めてほんとうの高さがわかる

うかぶことにより

初めて

雲の悲しみがわかる

小学3年国語教科書より

どきん

谷川俊 太郎

さわってみようかなあ つるつる
おしてみようかなあ ゆらゆら
もすこしおそうかなあ ぐらぐら
もいちどおそうかなあ がらがら
たおれちゃったよなあ えへへ
いんりよくかんじるねえ みしみし
ちきゅうはまわってるう ぐいぐい
かぜもふいてるよお そよそよ
あるきはじめるかあ ひたひた
だれかがふりむいた！ どきん



ヒゲ森の言葉の森・探検

はっぶん ぼうしよく

発憤忘食

心を奮い立たせて、食事でも忘れるほど励むこと。「発憤」
は心を奮い起こす意。「忘食」は食事を忘れる意。

いまから一年も経てば、私の現在の悩み
など、おそろくくだらないものに
見えることだろう。

サミュエル・ジョンソン

1709年〜1784年 イギリスの詩人、批評家。
困難をひとつずつ解決しながら、前に進もう。成長するにつ
れて、悩みは小さく感じられるようになるはずだ。